

舞踊活動における 楽しさに関する研究

—日本の舞踊家を対象として—

東京工業大学 小島理永・千葉大学 川口千代

【目的】

日本における舞踊家による舞踊活動は、各地で積極的に行われている反面、舞台活動だけでは生計が立てにくい状況であると見受けられる。

何故、困難な環境においても、舞踊を中心として生活を行う者が数多くみられるのだろうか。また、舞踊には一体どんな楽しさがあるのだろうか。さらに舞踊ジャンルによって楽しさには違いがあるのであろうか。そこで本研究では舞踊家を対象に、生活価値観、舞踊活動における困難と楽しさに関する質問紙を作成し、舞踊活動における楽しさの実体を明らかにすることを目的とした。

【調査方法】

- 1) 調査対象者：モダンダンス (94名)、クラシックバレエ (51名)、ジャズダンス (51名) に従事する196名 (有効回収率41.7%)
- 2) 調査期間：1999年7月25日から11月1日
- 3) 調査内容：先行研究等を勘案して調査用紙を構成した。主な調査項目は舞踊家の属性、舞踊経験、舞踊歴、舞踊活動状況、収入状況、生活価値観 (5件法)、舞踊活動における困難 (5件法)、舞踊活動における楽しさ (5件法) に関するものである。

【結果及び考察】

1) 舞踊家の生活価値観、困難、楽しさの構成要因について

生活価値観36項目、困難23項目、楽しさ54項目から、主因子法による因子分析を行った。生活価値観尺度から5因子 (「努力・積極」「表現・注目」「自己犠牲」「人生享受」「自己充足」)、困難尺度から7因子 (「多忙・活動の支障」「創造性欠如」「社会的不安」「上演での支障」「経済的不安」「指導力欠如」「身体支障」)、楽しさの尺度から9因子 (「舞台活動」「交友・連帯感」「情緒」「修練」「可能・能力」「探求・表現」「外的要因」「態度」「勝敗」) が抽出された。この結果から、舞踊家の生活価値観、困難、楽しさが明らかにされた。舞踊活動における楽しさでは、特に舞台での活動で多く得られていたといえる。

2) 舞踊ジャンル別による生活価値観、困難、楽しさの認識の比較について

舞踊ジャンル別での困難、楽しさの認識の比較を一要因の分散分析によって行った。その結果、

生活価値観、困難、楽しさにおいて、条件の要因は有意ではなかった。このことから、舞踊ジャンルに限らず、舞踊家の生活価値観や困難、楽しさの認識には差がないといえる。

3) 舞踊ジャンル別による生活価値観と楽しさの感じ方・捉え方について

舞踊ジャンル別に生活価値観と楽しさを構成する因子の相関を求めることで、楽しさの感じ方・捉え方を明らかにした。どのジャンルも「努力・積極」因子と「舞台活動」因子に相関が見られた ($p < 0.05$)。この結果から、どの舞踊家も努力を惜みず、積極的に舞台活動を行うことで楽しさを見出しているといえる。

4) 舞台活動での困難、楽しさが生活価値観に及ぼす影響について

① 困難、楽しさが生活価値観に及ぼす影響

困難や楽しさが生活価値観に与える影響を検出するために回帰分析を行った。その結果、偏回帰係数は、困難 [0.168 (両側検定: $t(138) = 2.51p < 0.001$), 楽しさ [0.581 (両側検定: $t(138) = 8.64p < 0.001$)] であった。このときの回帰式全体の説明率は $R^2 = 0.386$ であり、有意であった ($F(2, 138) = 45.05, p < 0.001$)。この結果から、楽しさの方が困難より強く生活価値観に影響を及ぼすものといえる。

② 困難、楽しさの要因が生活価値観に及ぼす影響

生活価値観を目的変数とし、困難、楽しさで抽出された因子を予測変数として、ステップ・ワイズ方式の回帰分析を行った。その結果、偏回帰係数が有意であった変数は、選出順に困難では「経済的不安」 ($F(1, 136) = 12.22 p < 0.01, R^2 = 0.75$), 楽しさでは「舞台活動」 ($F(1, 156) = 82.01 p < 0.001$) 「修練」 ($F(2, 155) = 47.99 p < 0.001, R^2 = 0.374$) であった。この結果から、舞踊家は困難では経済的不安が、楽しさでは舞台活動と修練が生活価値観に影響を及ぼしているといえる。

【結論】

調査結果から、すべてのジャンルの舞踊家には生活価値観、困難、楽しさの認識に違いはなかった。舞踊家の舞踊活動における楽しさでは、「舞台活動」「交友・連帯感」「情緒」「修練」「可能・能力」「探求・表現」「外的要因」「態度」「勝敗」の要因で構成されていた。特に、「充実感がある」「刺激をあたえてくれる」など舞台活動や、「努力すること自体」などの修練の要因が生活価値観に影響を及ぼしており、「経済的貧困である」などの経済的不安といった困難な状況でも、舞台活動に楽しさを見出し、舞踊活動に従事していることが考えられる。